

議題：第3回北総里山タウンミーティングの開催にむけて

議事：1) 生物多様性ちば県戦略県民会議(9月2日)の報告・・・長谷川先生より
《県民会議の質疑応答》・《提言(案)》については、添付資料参照
提言(案)の8ページ『(3)都市近郊と生物多様性』の文面を読み、解説。

・・・以下、北総里山クラブに関係すると思われる部分を抜粋

3) 都市近郊と生物多様性

生物多様性を育み、拠点となる里山自然が、大都市周辺においても幅広く広がっている。しかし、都市化の波、農林業の不振、低所得、人手不足、市民の無関心等によって、休耕地化、緑地の減少、樹林地の荒廃、資材置場化、ゴミの不法投棄、景観の悪化が進んでいる。とりわけ、多くの生き物が生息する谷津田において、耕作条件が悪いため厳しい状況が続いている。

これらの問題解決は、現行の都市計画のやり方や農林業家だけに頼るやり方では解決できない。都市近郊に生息する生物の多様性の保全のためにも、包括的な政策と市民への啓発活動による存続の合意を築くことが重要である。

対策と提案

【都市近郊の開発と生物多様性】

- 開発や土地利用変更の際、一般生物指標、水脈影響調査、特別保護生物調査等を追加し、条例上のアセスメント義務を強化する。
- 都市近郊の開発において、開発で消失する樹林地が担っていた多面的機能(気候の緩和、二酸化炭素吸収、生物の生息地)を補完する措置(代替地の保全、植林、移植等)をすべての開発に義務付ける。
- 水循環、生物多様性保全の基礎情報と土地利用計画を市町村境界にとらわれずにすり合わせるとともに、科学的な保全計画を策定する専門部署、市民活動拠点等を設置する。行政内での部署を一本化する。
- 樹林地を守っていく意思のある相続者には、樹林地の相続税を生産農地並にす

る。

- 千葉ニュータウン開発の目的で取得された県有地を、生物多様性保全の拠点として活用する。中でも、ニュータウン開発の除外地を多く含む谷田・武西地区を自然環境保全地区として確保する。
- 都市再生機構撤退後の千葉ニュータウン地域の都市計画と農村計画を再度見直し、生物多様性保全をベースに、生物多様性を評価する基礎調査を実施する。
.....以上抜粋.....

・生物多様性ちば県条約の環境基本計画への位置づけに関し

生物多様性と地球温暖化の2つは、世界レベルでも重要性は同じ(以前は、生物多様性保全は 地球温暖化防止に寄与するという認識が強かった)と位置づけられようとしているので、戦略的にも自治体の認識も低かった生物多様性保全は今後の大きな取り組み課題となる。

議事：2) 【守りたい千葉の里山・森】のモデル事業に関わる千葉県総合企画部政策推進室の視察についての報告 相馬(な)から

9月3日朝、千葉県推進室 内山氏より相馬宅へ保全希望の里山の視察の依頼のTELあり。連絡のついた長谷川先生と相談の上、下記 対応いたしました。

1. 視察日時 9月3日(月) 13:30~14:00
2. 視察者氏名 千葉県総合企画部政策推進室 室長 石田晶久氏
同上 政策調整グループ主幹 内山真義氏 他1名
3. 視察エリア
 - ・谷田地区(ルート 福祉センター⇒林⇒原⇒沢山の泉⇒飯綱権現⇒ハンノキ林)
 - ・武西地区(ルート スギ林⇒電機大谷津の湿地⇒ハトの原⇒カモ場)
4. 目的
「事業者と市民団体と行政が一緒に持続可能な新しい里山保全をしていくこと」を目的とした事業策定のための事前予備調査とのこと。
5. 結果
企業庁用地がまとまっている谷田・武西地区をモデル事業としてやることで進めていけるのではないかと、という感触をもたれたようです。
6. その他、経緯や雑感は以下のとおりです。
谷田・武西地区だけではなく、リストアップした全ての拠点を保全していくことつまり、まちづくりに里山を組み込んでいくことが里山クラブとして重要と考えていることを

お伝えしました。

しかし、限られた時間の中で北総地域のすべての場所を見ていただくことが物理的にできませんでしたので、谷田・武西地区をご案内しました。

また、北総地域に散在する企業庁用地と私たちの提案する保全したい場所のすりあわせがどうなっているかの質問を受けたので、そこまでは進めていないと回答しました。

県のモデル事業の候補は 10 数箇所程度。どこになるかは未定。

県の環境課、農林、水産、教育、都市計画各部門と連携をとりながら、里山モデル事業を進めている、とのこと。

私見を聞かれましたので

相馬個人的には、モデル事業として里山を保全したはいいけれど、持続的維持管理についての施策がないままに進めるのは、他の事例から予想すると、失敗する可能性が大きいのでそこを考えていただきたい、

また、事業が落ち着くまで数年間、行政がリーダーシップなりコーディネイト役を保つことを望む。事業の着手当初から市民を参加させて頂きたい、と要望。

視察については以上ですが、その後 9 月 6 日、私たちのリストアップした保全地区 40 箇所の全てを地図に落としてくださいと 依頼がありました。

以上

議事:3)12 月 9 日開催のタウンミーティング運営について の意見交換

テーマ

誰にむけて

どこまでやるか

どうやって

日時

12 月 9 日 10 時～12 時 … 決定

テーマ **里山に囲まれたまちづくりを目指して**

第 3 回 谷田・武西保全に向けて … 決定

誰にむけて

- ・一般市民を巻き込むのか、地主の方々へは？、行政、議員、今現在谷田・武西を利用している人たち … 未定

どこまで

- ・具体的保全策、保全区（企業庁用地だけ？ 隣接する場所も？、必要な設備の青写真???)

- ・谷田・武西を知らない人たちにまづ知ってもらう？
- ・多くの企業庁用地が売却されることによって、この北総地域の里山が虫食い開発されることを知ってもらう？・・・未定

どうやって

- ・まづは、今までの経緯を話して、みんなの賛同を得る？
- ・直接地主の方々と話す？
- ・タウンミーティングによって里山活動をする人を1人でも増やす？・・・未定
- ・どういう内容で、谷田・武西を保全していくか、自分たちの考えをまとめる。
- ・北総里山クラブが、谷田・武西の保全についての要望書を県と企業庁に提出したことを地主の方々に伝える必要があるのではないか。

次回打ち合わせ

9月20日(木) 午後7時から9時

よろしくお願いたします。